

## 学校課題研究授業⑦ 12月9日（平成25年度）

### 学校課題

# 自分の言葉で考え、伝え合える児童の育成

—基礎的な力をもとに、思考を広げ表現できるようにする取組—

本校では、上記のような学校課題を設定し、研究に取り組んでいます。

本年度は、言語力の基礎となる語彙力を育成し、さらに思考力・表現力を豊かにしていきたいと考えています。そこで、伝え合う力を「共感的な人間関係を土台に、豊かな語彙をもち、適切な言葉を選んで自分の考えを広げたり深めたりする力」ととらえ、言語力の向上をめざして研究を進めていきます。

今回は、2年生の国語で、次の単元で「おもちゃの作り方の説明書」を書くことを目的とした「読むこと」の二次の授業です。説明文について、順序を表す接続詞に着目して読めるように、「①段落ごとの文カードや写真カードを用いたことは、〈作り方〉の順序を考えるための手立てとして有効であったか」、「②小グループ（ペア活動）で考えを話し合う活動は、文章中の言葉に着目し、確認し合うために有効であったか」を視点に展開されました。

視点①「文カード・写真カード」については、ワークシートと併用して、子どもたちの興味を引き、活動のしやすさにもつながったので、一人一人が主体的に取り組むことができ、根拠をもって、内容をとらえることにもつながり、「読む活動」にも、それを活かして行う「話す・聞く活動」にも有効な支援になりました。

視点②「ペアで考えを話し合う活動」では、理由も付けて自分の考えを伝えたり、自分たちで正解を確認し合ったりすることができたりしました。ペアで説明し合う活動も、みんなが主体的に考えたり、話したり、聞いたりできていて、「読み」のまとめとして有効な活動になりました。

指導者の宇都宮大学附属小学校の山中勇夫先生からは、端的な言葉、子どもの気付きや疑問を引き出す言葉かけ、しかけ、とぼけ、ゆさぶりなど、指導者の技術が優れているというお褒めの言葉をいただきました。また、最初はヒントになる接続詞だけを見せて、必要感に応じて文も提示し、文の内容を吟味して順番が工夫されていることに気づかせるという代案をお示しいただきました。下野市学校教育課指導主事の高山靖子先生からは、読む目的を明確にした単元の展開や、自らの必要感で主体的に何度も読んでしまうような活動の展開が参考になるので、今後の実践に生かしてほしいというお話しをいただきました。

